



国際協力NGOによる 組合員と現地の人々の橋渡し

さきがわ
崎川

まさし
勝志

●エファジャパン・ベトナム駐在員（ベトナム・ラオス事業担当）

エファジャパンは、自治労（全日本自治団体労働組合）が1994年に結成40周年記念事業として、ベトナム、ラオス、カンボジアで始めた国際貢献活動の実績と経験を引き継ぎ発展させ、子どもの権利を実現するために、2004年10月に設立された国際協力団体（NGO）である。現在は、ベトナムでは障がい児、ラオスでは図書活動、カンボジアではノンフォーマル教育の支援を実施している。筆者自身はエファジャパンのベトナム・ラオス事業担当として、ベトナムのハイフォン市に駐在しながら時折ラオスへ出張し、現地の政府協力機関と一緒に支援計画の立案・実施をしている他、組合員らの現地訪問の受け入れなどを行っている。

エファジャパンの役割として、主なドナーである各労働組合の組合員と現地の人々との橋渡しをし、効果的な支援を実施することがある。例えば、自治労による国際貢献活動の特徴として「組合員の直接参加」があげられるが、これは支援が単なる資金援助やハコモノ建設に終わらず、一般組合員が日々の労働や組合活動の中で蓄積してきた経験・専門性を現地の実情にあわせて活かすことで、組合員への啓発だけでなく、現地の人々の技術向上に寄与することをめざしている。実際、途上国の社会経済活動では、日本の自治体や企業で働く人からすると基本的なスキルが欠けていることがあり、それらのちょっとした基本的スキルを身に

付けることで彼らの運営体制や活動内容が大きく改善することがある。

組合員の参加による国際貢献活動は、エファジャパンの活動に専門性と多様性をもたらしている。日本のNGOの多くは、国際協力活動一般に関しては現場での実務経験やノウハウを持っている。しかし、特定の技術分野における経験や専門知識を持った専門家集団という訳ではないため、現場のニーズに合わせてその分野で働いている組合員から事業の指導、助言を受けることができるのはエファジャパンの強みでもある。一方で、直接現場に来て指導、助言してもらうことのできる組合員は、組合員全体の中では一部にすぎない。そこで、現場に來られなくても、現地子ども達に寄贈するための古着や要らなくなった文房具を集めてくれたり、古本をその国の言葉に訳して届けたりしてくれる組合員もいる。また、組合員自身による取り組みから、私達が効果的な組合員の参加方法について学ぶこともある。自治労のある県本部は、以前は毎年違う国へ研修ツアーに行っていたが、ラオスの小学校にコミュニティ図書館を建設し、それからはほぼ毎年ラオスに研修ツアーで来てこのコミュニティ図書館を訪れるようにしている。そうすることで、毎年研修ツアーのメンバーが代わっても、今後は県本部による1つの国際貢献活動を各組合員で共有できるようになり、職



エファジャパンが支援するベトナムの障がい児達を訪問し、交流する自治労の組合員

場に戻ってからも参加者が現場で視察したことを同僚に伝え、支援活動の裾野が広がることが期待されている。

国際協力の現場では、支援する側と支援を受ける側の考えにギャップがあることは日常茶飯事だが、組合員と現地の人々の橋渡しをしても同様のことを感じる。国際協力では「魚をあげるのではなく、魚の釣り方を教える」というフレーズがよく使われるが、この台詞を組合員からも聞くことがある。ただし、これはあくまで私達支援する側の視点であって、現地の人々は実際には「釣り方を教わるのではなく、魚を求めてくる」ケースが多い。例えば、自分の技術を活かして、現地の人のために何か支援をしてあげようと組合員が思っても、結局は「～をしたいから、～の額の資金を援助してほしい」という内容の提案書が現地の人から送られてくるのが少なくない。しかし一方で、それでも本当に「釣り方」を教わりたいと思う人もいる。私の個人的な印象に過ぎないかもしれないが、そういう人達のほうが前者のタイプの人達よりも優秀で誠実であり、一緒に協力した時に満足のいく成果を上げることができる。そして、そのような現地の人達を組合員と結び付けていくこともエファジャパンの役割であると考えている。

また、言葉の持つ意味合いも違う。例えば、日

本人の概念では「モデル事業」とは、ある場所で行った事業の成果を他の場所や地域にも波及させることをめざす事業であるが、多くのベトナム人にとって「モデル事業」とは、事業を実施するその一点の場所で、如何に立派な物を作る、立派な活動を行うかをめざす事業のことであって、他の場所や地域への波及効果は念頭にない。互いに「モデル」という言葉を使うのだが、その概念が異なるため、組合員がベトナムに来て、こちらの政府職員と話を合意したとしても、最終的にめざしていることにズレが生じる。現地の人々の考え方、慣習、ニーズ、本音は、現地に駐在したことのある者でないとどうしても分からない所がある。

国際協力の現場での活動は実践と試行錯誤の繰り返しによる改善活動である。そしてそれと同じく、どのように組合員と現地の人々の橋渡しをしていくかも実践と試行錯誤の繰り返しによる改善活動だと感じている。この試行錯誤を通して、現地の人々と彼らのニーズ、組合員の持つノウハウや専門スキル、一般組合員による継続的で厚みのある協力活動を上手くエファジャパンが結び付けることが出来た時、効果的な事業の立案・実施へ導いていくことができるのだと思う。